

「日本人の宗教意識」に関する共同研究の報告及び論文

人文研究室共同研究員

神 原 和 子 岩 本 一 夫
大 西 昇

「日本人の宗教意識」を総合主題に、みず子供養という日常的でない現象の一つを直接の対象として、人文研究室では共同でフィールドワーク研究を行なって来た。研究の期間は昭和 59 年度以降、同 63 年現在に到る 6 箇年有余で、この間大学から研究助成費の下付を受けている。

あらかじめ如何なる理論にも前提にもよらず、宗教現象そのものに即して、多様な日本人の宗教意識の持つ諸問題を、各々の視点から問うというのが、共同研究員共通の根本の意図である。そこで現状を直接的に問題とする為、最も庶民的なレベルの、しかも近来になって急激に衆目を集めた「みず子供養」という現象を、先ずはその一主題として選択した。共同研究員による実地調査、アンケート形式による供養者達の意識調査、ならびに是に基づく統計、各視点を基礎に統計から求められた、クロス・データ等を資料として考察、検討を重ねる方法がとられている。意識調査、及びクロス・データに関しては、前二回の報告に述べたように、前者は京都の某古刹の協力の下で 6 年間に総数 1127 部にのぼる資料を得、後者に関しては、協力を申し出られた京都大学現代宗教社会学研究会に技術的な助力を仰いでいる。

以下は簡略な 6 年間の研究経過、即ち研究発表、論文、実地調査についての報告である。

1. 研究発表

イ. 日本宗教学会第 44 回学術大会(昭和 60 年 9 月 1 日、於立正大学)

各発表の主題

- みず子供養にみる靈魂の問題 神原和子
- みず子供養にみる宗教性の問題 岩本一夫
- みず子供養にみる呪術の問題 大西 昇

ロ. 同 第 46 回学術大会 (同 62 年 9 月 17 日、於立教大学)

各発表の主題

- みず子供養にみる靈魂の問題 神原和子
- みず子供養にみる宗教性の問題 岩本一夫
- みず子供養にみる現世利益の問題 大西 昇

ハ. 同 第 47 回学術大会 (同 63 年 9 月 16 日、於仏教大学)

各発表の主題 62 年と同じ。

2. 論文

イ. 東京工芸大学工学部紀要 8 巻 2 号. 人文社会篇. 第 6 号. 1985

ロ. 同紀要 10 巻 2 号. 人文社会篇. 第 8 号 1987. に『『日本人の宗教意識』に関する共同研究の報告及び論文』として、報告と共に、上記学術大会に於ける各自の主題を掲げて、論文も掲載。(但し、10 巻 2 号は、神原・岩本のみ論文掲載)

3. 実地調査

昭和 58 年度

イ. 印度仏教学会学術大会 (於高野山大学) に出席。

高野山奥の院にみず子供養の実態調査

ロ. 仏教学会学術大会 (於京都大学) に出席。
京都周辺の若干の寺院に実態調査
○直指庵. 化野念仏寺. 等。

昭和 59 年度

ハ. 鎌倉市. 長谷寺。

寺院内見学。地蔵講に出席、堂内のみず子地蔵尊撮影、住職にみず子供養の在り方、扱い方を伺う

ニ. 中世哲学会に出席 (於京都大学)

化野念仏寺に再度出向き、住職、寺務長に
実態を伺う

又、直指庵、及び他のみず子供養のみを扱
う寺院を調査

ホ. 下北半島 恐山、賽の河原、宇曽利湖畔
のみず子地藏見る。夏祭の話在地蔵堂の住
職に伺い、参加を申し込む。

昭和 60 年度

ヘ. 福島県

○岩船観音。大蔵寺。

○同県内のみず子供養を訪ねるが意外に少
なく一驚

ト. 群馬県

○秩父。紫雲山地蔵寺。

単立のみず子供養寺。多数のみず子地藏
尊、観音（規格品）が、山を切り開いた
崖に並ぶ。

○金昌寺他秩父三十三ヶ所の内若干の寺院
に実態調査、金昌寺には子育観音像の他、
中世～江戸時代へかけての野仏多数

チ. 静岡県 浜名湖周辺

○方広寺。五百羅漢、裏手にみず子地藏尊

○浜名西国三十三ヶ所の内

大福寺。東心寺。摩訶耶寺。

みず子地藏供養塔のある寺院多数。

厄除け、ぼけ封じ等の民俗信仰も在る

○豊川稲荷

庶民信仰、民俗信仰の実態調査

リ. 大分県別府市

○大光院

○国東半島

双子寺

富貴寺

等

各寺院に夥しい
みず子地藏供養
をみる

昭和 61 年度

ヌ. 滋賀県

○近江神宮

現宮司横井時常氏に紹介を受け、氏の神
道、仏教、キリスト教についての講説を
聞く

○金剛輪寺、釈迦山百済寺、太郎坊（民間
信仰の寺）調査

○琵琶湖研究会に出席

神道と言霊、近江文字の研究発表を聞く。

ル. 青森県

○弘前。久渡寺に実態調査。寺務所に夏の祭
について詳細をきく。

○津軽 川倉地藏。実態調査、堂内に夥しい
数の浴衣、嫁入衣裳をきせたみず子地藏あ
り、寺務所の係員に供養者の話をきく。

昭和 62 年度

ヲ. 青森県

○下北半島。恐山夏の大祭に参加、堂内に二
泊、死者供養、みず子供養の実態を見る。

又巫女（いたこ）の降霊（口寄せ）と供養
者の実態を見、撮影

○福島県

会津柳津

○久保田三十三観音 調査、撮影

○円蔵寺虚空菩薩。みず子地藏尊在り、供
養の最も堅実な在り様を見る。

昭和 63 年度

ワ. 福島県

○会津。ころり三観音

中田観音（普門山弘安寺）

立木観音（金塔山恵隆寺）

鳥追観音（金剛山如法寺）

「安楽ころり信仰」として近來有名。寺内に
みず子地藏もあり、民俗信仰、原始信仰等、
多くの庶民信仰の実態を見る。

※上記の他にも新新宗教といわれる、二、三の
箇所を実地調査している。

イ. 会津村慈母大観音像

ロ. 田沢湖畔金色大観音

4. この研究の他学会との交流、及び経過

イ. 意識調査（アンケート形式）資料。

昭和 58 年。京都の有名な古刹が我々の研究意
図に厚意ある協力を申し出られ、寺院側と、
アンケートを協同作成。

昭和 59 年第一次案の完成により実施を見た
が、回収の結果改訂の必要が認められ、昭和
60 年 2 月末第二次案改訂案完成。3 月以降、
同寺院で供養者達の意識調査が始められ、昭

和 62 年 7 月現在、回収総数 1127 部にのぼっている。

ロ. 京都大学宗教社会学研究会との交流

日本宗教学会での、当人文研究室の「みず子供養」の共同研究発表は反響を呼び昭和 61 年 4 月上旬京都大学現代宗教社会学研究会（代表者、京都大学助教授高橋三郎氏、構成員 6 名）から、この研究に参加協力の要請があった。当研究室は両分野交流による視野の拡大、新しい問題の展開等大いに価値あることとして快諾。同 62 年 4 月 2 日京大社会学研究室に招聘を受け、諸研究発表の交換、当人文研究室所有の全調査資料の公開、及び討議が 2 日間にわたって行なわれた。

京大側は調査資料の総合統計作成と、各問題点を資料で操作、クロス・データを作成する協力を約束。資料は 62 年 7 月に完成された。又京大側では独自に全国の包括宗教団体、単立宗教法人を対象にみず子供養に対処する対策、態度、歴史等の調査を「『水子供養』に関する調査」の調査報告(A)(B)として施行した。（資料は、当大学紀要人文社会篇、第 8 号に掲載）

その後も京大現代宗教社会学研究会との交流は続行され、是の研究の合同出版を企画中である。

ハ. 外国人学者との交流

昭和 63 年の日本宗教学会（京都仏教大学）に於ける発表は、京都大学人文科学研究所招聘教授、Bardwell Smith : Professor of Asian studies. (Carleton College) 及び、竜谷大学仏教文化研究所客員研究員 Elizabeth Harrison (Department of Far Eastern Languages and Civilizations ; University of Chicago) の注目する所となり、発表後この問題について懇談、再会を約したが、10 月 18 日、上記 2 名の学者と京大現代宗教学研究会の 3 名の要請を受け、急遽「みず子供養」の研究交換会が開催され、Elizabeth G. Harrison 女史等スタッフの集録した意識調査、及び資料と当人文研室の資料の交換が行なわれ、討議は 4 時間に及んだ。それ以降鎌倉長谷寺のみず子供養の実態調査希望があり案内、住職に紹介した。

以上、研究発表は僅か三度乍ら、他学会、及び外国人学者等との交流と、多くの反響がありこの問題が社会的に重大な意味を持ち、日本人の複雑な宗教意識研究に一つの方途を持つ事を再確認するに到り、我々の研究の重要さを更めて感じている。

記 神原